

時期	その他
区分	国際社会との連携
分野	国際社会との連携
検証項目	防災に関する国際シンポの開催

根拠法令・事務区分	-
執行主体	国、県、市町
財源	自主財源
概要	<p>阪神・淡路大震災以後、特に平成11年以降から、震災からの復興のPRや、震災復旧・復興の教訓・研究成果の発信等を行うために、兵庫県内で防災に関する国際会議やシンポジウムが相次いで開催された。</p> <p>特に、アジア防災センター、地震防災フロンティアセンター、国連地域開発センター、防災計画兵庫事務所、国連人道問題調整事務所アジアユニットなど、国際的な防災に関する研究機関や調整機関が相次いで兵庫県内に開設されたことが、アジア諸国のシンポジウム、研修が兵庫県内で集中的に行われるようになってきた要因であると指摘されている。</p>

阪神・淡路大震災における取組内容とその結果	
国	<p>阪神・淡路大震災に対して取った措置</p> <p>阪神・淡路大震災に対して取った措置の結果</p>
県	<p>阪神・淡路大震災に対して取った措置</p> <p>阪神・淡路大震災に対して取った措置の結果</p>
市町	<p>阪神・淡路大震災に対して取った措置</p> <p>阪神・淡路大震災に対して取った措置の結果</p>
その他	<p>阪神・淡路大震災に対して取った措置</p> <p>阪神・淡路大震災に対して取った措置の結果</p>
阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた取組内容とその結果	
国	<p>阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた取組み</p> <p>平成11年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>12月、「国際防災の10年」記念シンポジウムが東京で開催され、10年間の活動の総括的な討議を行った。国土庁（当時）外務省などの防災担当者や国内外の学者経験者が約200人参加した。[『阪神・淡路大震災復興誌（第5巻）』（財）阪神・淡路大震災記念協会,p589-590]</li> <li>12月、アジア地域における防災情報共有化の推進をテーマに、「第2回アジア防災センター国際会議」が開催された。[『阪神・淡路大震災復興誌（第5巻）』（財）阪神・淡路大震災記念協会,p590-591]</li> </ul> <p>平成12年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1月24日、阪神・淡路大震災を教訓に、市民に防災意識を持ってもらおうと、科学技術庁と兵庫県は、神戸市・ポートアイランドの神戸国際会議場で「地震・活断層に関する国際セミナー」を開き、市民約350人が参加した。[『阪神・淡路大震災復興誌（第5巻）』（財）阪神・淡路大震災記念協会,p591-592]</li> </ul> <p>平成13年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2月5日、6日、世界各国の防災専門家が地震や洪水など自然災害への対策と協力などについて話し合う「世界防災会議」が開催された。日本政府、兵庫県、アジア防災センター、OECD、世界銀行、ISDRが主催。[『阪神・淡路大震災復興誌（第6巻）』（財）阪神・淡路大震災記念協会,p619-620]</li> </ul> <p>阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた取組の結果</p>
県	<p>阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた取組み</p> <p>平成10年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3月、米国・ノースリッジ地震や阪神・淡路大震災などの都市型地震を教訓に、APEC諸国での</li> </ul>

	<p>地震防災における相互協力を推進するための協力プログラムの構築を図ることを目的とした「アジア太平洋都市地震研究防災ワークショップ」(科学技術庁、理化学研究所、地震防災フロンティア研究センター主催)が開催された。[『阪神・淡路大震災復興誌(第3巻)』(財)阪神・淡路大震災記念協会,p600-601]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月、現代都市が抱える課題とコミュニティの重要性を踏まえて新たなまちづくりを都市計画家や研究者、行政担当者が考える「21世紀の都市(まち)づくり三田国際会議」(兵庫県・三田市主催)が開催された。2日間の討議後、「98兵庫三田宣言」を採択した。[『阪神・淡路大震災復興誌(第4巻)』(財)阪神・淡路大震災記念協会,p508-509] 平成12年</li> <li>1月18日、阪神・淡路大震災の被災地で活躍するボランティアらが神戸市内で「震災5周年 市民とNGOの『防災』国際フォーラム」を開き、海外の自然災害に対する支援の方法を検証した。同フォーラムには、トルコ、台湾に出かけたボランティアや兵庫県、神戸市の職員などが参加した。[『阪神・淡路大震災復興誌(第5巻)』(財)阪神・淡路大震災記念協会,p585] 平成13年</li> <li>1月29日から、海外14カ国と日本の政府や都市の防災に関する政策立案者、学者、NGO代表らが参加した「地震に負けない世界へ向けて 21世紀国際ワークショップ」が開催された。国連地域開発センター防災計画兵庫事務所、兵庫県、神戸市などが主催。[『阪神・淡路大震災復興誌(第6巻)』(財)阪神・淡路大震災記念協会,p620-621] 平成14年</li> <li>1月、国際シンポジウム「地震に負けない世界へ向けて」を国際協力事業団兵庫国際センターで開催した。国連地域開発センター防災計画兵庫事務所や兵庫県等で結成された実行委員会が主催した。[『阪神・淡路大震災復興誌(第7巻)』(財)阪神・淡路大震災記念協会,p586-587]</li> <li>2月20日~22日、アジア地域のNGO、国際機関が、阪神・淡路大震災の教訓を学とともに、防災と災害対応に関して情報、意見の交換を行うとともに、NGO間の協力体制強化の必要性と可能性について議論する「アジア地域災害NGOシンポジウム」が開催された。主催は、兵庫県、アジア防災センター、国連人道問題調整事務所が参画しているアジア地域災害NGOシンポジウム実行委員会。[『阪神・淡路大震災復興誌(第7巻)』(財)阪神・淡路大震災記念協会,p585-586]</li> </ul> <p>阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた取組の結果</p>
市 町	<p>阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた取り組み 平成12年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1月、アジアの各都市が防災対策の現状と課題について話し合う「神戸・上海・マニラ三都市防災会議」が神戸市役所にて開催された。[『阪神・淡路大震災復興誌(第5巻)』(財)阪神・淡路大震災記念協会,p590-591]</li> <li>1月18日から、「北淡国際活断層シンポジウム」が開催し、21の国と地域から約140人が参加した。地震予測や各地の断層について最新の研究成果を発表する。一般向けには18、19日に公開学術シンポを開催。22日、23日には通訳付きの講演会や交流集会在開かれた。[『阪神・淡路大震災復興誌(第5巻)』(財)阪神・淡路大震災記念協会,p592-593]</li> </ul> <p>阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた取組の結果</p>
そ の 他	<p>阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた取り組み 阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた取組の結果</p>
これまでの各方面からの指摘事項	
<p>防災に関する国際会議やシンポジウムは、2000年度も兵庫県内で相次いで開催された。世界では、90年代は「自然災害の10年」といわれたように、巨大地震、火山噴火、大規模な洪水や森林火災が相次いだ。しかも、被害の多くがアジアに集中しているのも特徴である。「自然災害の10年」のちょうど中間で起きた阪神・淡路大震災は、先進国の、しかも近代都市を襲った地震として世界に大きな衝撃を与えた。さらに神戸を中心とした被災地の復旧・復興スピードにも関心が集まった。そして、アジア防災センター、地震防災フロンティアセンター、国連地域開発センター、防災計画兵庫事務所、国連人道問題調整事務所アジアユニットな</p>	

ど、国際的な防災に関する研究機関や調整機関が相次いで兵庫県内に開設されたことも、世界、とりわけアジア諸国のシンポジウム、研修が兵庫県内で集中的に行われるようになってきた要因である。(『阪神・淡路大震災復興誌(第6巻)』((財)阪神・淡路大震災記念協会))

課題の整理

防災に関する国際シンポジウムの開催と国際協力関係の強化

今後の考え方など

震災体験の風化を防ぐための神戸市職員震災バンクを活用し、震災経験やノウハウを次世代に引き継ぐことで、震災で得た教訓を今後の防災対策の充実に役立てていく。(神戸市)